

令和元年度 山形歯科専門学校 学校評価書

※ 評価得点欄の値は、校内評価委員会及び同会事務局の全教職員計12名の評価得点を平均したものである。なお、各自の評価得点は次の基準による。

＜適切－4点、ほぼ適切－3点、やや不適切－2点、不適切－1点＞

また、得点の文字色は次の通りである。

青(3.8~4.0)－「良い」、黒(3.5~3.7)－「まあまあ良い」、ピンク(3.0~3.4)－「要注意」、赤(2.9以下)－「改善必要」

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員の指導及び助言	次年度の改善点
		評価得点	成果と課題（「学校自己評価報告書」の略記・抜粋）		
1 教育理念・目標	A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	3.9	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 文部科学大臣「職業実践専門課程」認定（3月）。 (A・B・C・E)</p> <p>② 教育課程編成委員会の年2回開催（含 企業等委員2名）。 (A・B・C・E)</p> <p>③ 多職種連携の学習にかかる学校間連携交流事業の充実。 (A・B・C・E)</p> <p>④ 学校HPの全面リニューアル並びにスマホ対応化による学校情報等の適宜適切な公開。(D)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 歯科医療の高度化や多職種連携等の社会的要請へ対応した指導内容の模索。(A・C)</p> <p>② 学校運営や教育活動等に係る保護者への広報の徹底。(D)</p> <p>③ 新教育課程完成年度としての検証と総括。(E)</p>	<p>○ 学校間連携交流をはじめ、各種の積極的な取り組みは評価できる。</p> <p>○ 数値に表れている以上に、努力の跡が読み取られる項目もあり、今後期待する。</p> <p>○ 学生と保護者の理解や認識の度合いに差がある。学校の教育理念や目標について、浸透を図る工夫が必要である。</p> <p>○ 現在そして将来的に求められる歯科衛生士の職業的特性について、さらに理解や浸透を図ってほしい。</p> <p>○ 学生生活の充実度や「入学してよかった」という意識が調査でやや低めに出ているがその背景や要因を精査すべきである。</p>	<p>1. 高度化する歯科医療への理解を高めるとともに多職種連携の要請に対応できるよう、学生への理解・周知の徹底を図る。</p> <p>2. 保護者に対して、学校運営の具体的状況を適宜お知らせする。 (『形歯会報』記事等)</p> <p>3. 校内外の多様な取り組みをさらに充実させる。また、それに対する学生の評価を可能な限り即時的に把握し、改善の具体策を探る。</p>
	B 学校における職業教育の特色は何か。	3.9			
	C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.8			
	D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3.0			
	E 学科の教育目標、育成人材像は、学科に対応する業界にニーズに向けて方向づけられているか。	3.4			
2 学校運営	A 目標等に沿った運営方針が策定されているか。	3.8	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 教育運営委員会を年8回、校内評価委員会を年7回開催。両者は学校運営の統括会議。形歯理事会との連携も円滑。 (A・B・C)</p> <p>② 学校評価事業は4年目。関係諸規定を基に円滑に実施し。多くの点で学校運営が改善。(A・B・C)</p>	<p>○ 学校評価事業4年となるが、前年度比較ばかりではなく、4年間の変化等について、より詳細な分析検討が必要ではないか。</p> <p>○ 学校評価アンケートの選択肢設定にもう少し工夫が必要である。また</p>	<p>1. 学校評価事業5年目を迎え、意識調査の在り方やデータの分析方法等、それぞれの視点から総括的に検討や改善を行う。</p> <p>2. 学生に対する意識調査について、より詳細に実施で</p>
	B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.8			

	C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	3. 8	③ 教育課程編成委員会が核となり、教育運営の改善が進行。(A・B・C)	<p>「次年度の改善点」にある事柄についての取り組みを評価する調査項目があればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生と保護者の評価に差が見えることについて、精査すべきである。 ○ 学生の意識調査について、否定的な回答の場合、その理由や問題点等を指摘できるような調査方法にしていく工夫をすべきではないか。 ○ 学校評価事業への真摯な取り組みは大変よいと思う。 	<p>よう工夫するとともに、年度の課題に対する評価を求める内容に改善する。</p> <p>3. 学校評価をはじめとして、校内の様々なデータ処理については、ITを活用し可能な限り効率的に、また省力化できるよう検討する。</p>
	D 人事、給与に関する規程等は整備されているか。	3. 2	④ 学校図書室運営検討委員会を年2回開催。(含 外部有識者2名) 図書室機能の充実と学習環境の改善。(A・B・C)		
	E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3. 1	⑤ 学校HPを全面リニューアルし、専用ブログとともに本校公式Instagramによる多様な広報の実施。(G)		
	F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3. 5	[今後の課題]		
	G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3. 8	① ITを活用した事務処理等の工夫。(H)		
	H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3. 0	② 業務の精選や役割分担の見直し等による教職員の負担軽減や教育の充実に向けた検討。(E・H)		
			③ 勤務時間に係る就業規則の点検と調整。(C・D)		
3 教育活動	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3. 8	[主な取組 並びに 成果]	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3学年「テーマ研究」発表会は大変充実しており、今後に期待している。 ○ 授業評価の取り組みは大変よいが、来年度の課題として考えている中間期の簡易総括は是非試行してほしい。関係して、質問内容を整理する必要があると思われる。 ○ 授業評価の有効性のためには、授業者と学生の双方向での情報共有が大切であり、その工夫をしていくべきである。 ○ 授業者は学生の「授業アンケート」の内容を精査して自分の「総括表」作成に対応しているわけだが、より効果的に授業の内容改善に活用していくよう、働きかける必要がある。 	<p>1. 新教育課程完成年度にあたり、教育課程編成委員会並びに教育運営委員会において状況分析・総括を行う。</p> <p>2. 3学年科目「テーマ研究」公開化を継続し、その内容充実を図ることにより広く本校の特色を広報する。</p> <p>3. 授業評価事業3年目にあたり、中間期簡易総括の実施をはじめとして、学生と指導者が双方向の情報共有が図られるよう工夫する。</p>
	B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3. 7	① 新学則・新教育課程を実施し2年経過。概ね良好な状況で推移。(A・B・C)		
	C カリキュラムは体系的に編成されているか。	3. 8	② 担当教務による実習協力全施設への訪問面談の実施。評価方法等への理解も定着(D・E・F・H)		
	D キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や開発などが実施されているか。	3. 8	③ 臨地実習協力施設との文書による連携の確認と詳細な打合による内容充実。成就感・達成感の向上。(D・E・F)		
	E 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成や見直し等が行われているか。	3. 5	④ 第3学年「テーマ研究」発表会の公開授業化3年目、研究内容や取組の充実度が向上。研究過程の日程設定を見直すことによる多忙感の解消。(D・H)		
			⑤ 東北文教大学との教育連携事業3年目で年2回の相互交流を実施。また、山形美容専門学校との連携交流も年3回実施。両者ともに内容が向上。(D・E・F)		
			⑥ 授業評価実施2年目。学生は「授業アンケート」、指導者には「授業状況総括表」として回答を依頼し、集約結果を分析検討し諸会議に報告。(G)		

	F 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	3. 7	<p>⑦ GPAを用いた学習達成度評価による正確な学力評価とともに意欲向上に向けた指導を実施（I）</p> <p>⑧ 「教務研修規定」に則った計画的な研修実施。（M・N）</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 3年生後期における学生の多忙感の解消策の一つとして、「テーマ研究」活動の行程等の検討が必要。（B・D・J）</p> <p>② 多職種連携に対応する力を培う大学や専門学校との連携のさらなる推進。（D・E・F）</p> <p>③ 授業評価の分析精度向上にむけ、各科目毎の中間期簡易総括の実施を検討。（G）</p> <p>④ 学修状況について保護者への適切な周知法の検討（I）</p> <p>⑤ 講師（実務経験の有無等）・実習指導者の適切な選定・委嘱。教務の新規職員採用の検討。（K・L）</p> <p>⑥ 教務の指導力向上をめざす研修の充実。（M・N）</p>	<p>○ 授業のやり方として「グループワーク」を取り入れることは大変有効である。</p> <p>○ 歯科衛生士の職業的特徴をしっかりと理解浸透させ、就業後の充実に繋げていってほしい。</p> <p>○ 臨床実習先での指導がもう少し一定し、標準化が図られた方がよい。</p>	
	G 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3. 8			
	H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3. 8			
	I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3. 8			
	J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3. 7			
	K 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3. 2			
	L 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	3. 3			
	M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3. 5			
	N 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3. 7			
4 学 修 成 果	A 就職率の向上が図られているか。	3. 9	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 国家試験全員合格、資格取得100%を連続達成に向けた全員指導体制の強化。（A・B）</p> <p>② 学生個々の状況に応じたサポート体制の強化。（C）</p> <p>③ 就職内定者への職場体験等就業準備指導の改善。（A）</p>	<p>○ 国家試験の合格率と就職率の向上、退学率の低減は専門学校としての大きな使命である。現在の状況は大変よいが、今後さらに体制を強化してほしい。</p> <p>○ 知識や技術の修得や心構えの充実等、戴帽式の様子に表れている。</p>	1. 個人面談や保護者面談の機会を適宜設定することで、本人や家族との情報共有や意思疎通を図る。
	B 資格取得率の向上が図られているか。	3. 8			

	C 退学率の低減が図られているか。	3. 6	<p>[今後の課題]</p> <p>① 医療専門職の歯科衛生士をめざす意識の向上。(B・C)</p> <p>② 国家試験対策支援の早期開始と集団指導体制の強化 (B)</p> <p>③ 個別面談・保護者面談等の繰り返しによる個に応じた指導の徹底、不適応等による中途退学者の低減。(C)</p> <p>④ 卒業後1年以内の離職防止に向けた指導体制の確立。(D)</p> <p>⑤ 卒業生の社会的活躍の的確な把握と在学生の教育等への反映。(D・E)</p> <p>⑥ 在宅の資格保有者対象の復職支援研修会の内容充実と期すとともに、それに向けた山形県歯科医師会や同歯科衛生士会、本校同窓会との連携の強化。(D)</p> <p>⑦ 超高齢社会に対応した歯科診療への理解の深化。(D・E)</p>		<p>2. 国家試験対策の年間計画を精査し、学力不振者への早期指導を含めて、3年間を見通した工程表を整備していく。</p> <p>3. 卒業生の活躍や実績について情報収集し卒業指導に役立てるとともに、時宜に応じて在籍学生への指導に供する。</p>
	D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3. 1			
	E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか。	3. 1			
5 学 生 支 援	A 進路や就職に関する支援体制は整備されているか。	3. 8	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 各学年段階に応じた担任面談・保護者面談、並びに進路選択・決定期の教務主任面談等、複層的な進路指導の実施。(A・G)</p> <p>② 学校カウンセラーによる教育相談の充実。(B)</p> <p>③ 昨年度開始の修学支援事業(「特待生制度」・「奨学生制度」)の円滑な運用。学生の学習意欲向上への反映。(C)</p> <p>④ 「高等教育の修学支援新制度」対象機関の確認(9月)。次年度より運用開始。(C・I)</p> <p>⑤ 厚生労働省指定「専門実践教育訓練給付」に係る学生への円滑な対応。(C・I)</p> <p>⑥ 1年生による母校訪問(夏季休暇期間中)の充実と高校側の好意的な評価。(A・B・J)</p> <p>⑦ 近隣高校(山形学院高等学校)との連携、1年・医療看護コース生の学校見学・体験学習等を実施(J)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 修学支援事業「奨学生制度」の定員充足。(C)</p>	<p>○ 各制度の運用は概ね良好であるが、「奨学生制度」について最大人数まで対象者を拡げてほしい。</p> <p>○ 臨床実習先までの移動手段にかかる経費負担について、可能な限り平準化した方がよい。</p> <p>○ 担任面談、保護者面談等々様々な個別指導の場において、学生や保護者の問題意識をしっかりと捉えることは大切である。</p>	<p>1. 経済支援にかかる校内外の各制度を適切に運用することにより学生支援の実をあげる。</p> <p>2. 社会人入学者の増大を目指し、各種広報に工夫を加える。</p> <p>3. 学生の健康管理指導や保護者対応等について、適宜職員研修会を設ける。</p>
	B 学生相談に関する体制は整備されているか。	3. 9			
	C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3. 8			
	D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3. 4			
	E 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	3. 2			
	F 学生の生活環境への支援は行われているか。	3. 0			
	H 保護者と適切に連携しているか。	3. 4			

	I 卒業生への支援体制はあるか。	3. 6	② 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度の有効活用に向けた社会人入学の推進。(C・I)		
	J 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3. 6	③ 「高等教育の修学支援新制度」の適切な運用。(C・I)		
	K 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3. 6	④ 進路指導の充実に向けた外部専門家による指導。(A)		
			⑤ 学生の健康管理・指導体制の明確化。(D)		
			⑥ 県や地域等主催の行事やイベントへの参加による社会性の涵養。(E)		
			⑦ 保護者との応接等に係る研修会の実施。(G)		
			⑧ 学校HPの活用による卒業生の状況把握。(H)		
6 教育環境	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3. 3	[主な取組 並びに 成果]	(特に発言なし)	1. 男子学生対応の施設・設備を整備する。 2. 危機管理のための緊急連絡システムの運用開始にあたり、学生・保護者・教職員の共通理解を図る。 3. 学校図書室の利用促進に向け、学生図書委員会の活動を支援する。
	B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	3. 2	① 学校図書室運営検討委員会(含 外部有識者2名)を年2回開催し、施設設備や図書拡充等を協議。学習環境が改善。(A)		
	C 防災に対する体制は整備されているか。	3. 5	② 教務等による全臨床実習協力施設訪問の実施。院内見学や指導者との面談による共通理解の深化。(B)		
			③ 防災講話実施による危機管理意識の向上。(C)		
			④ 防犯カメラ(記録可能)設置による安心安全の確保(C)		
			⑤ 学生対象緊急連絡システム体制の準備。(A)		
			[今後の課題]		
			① 更衣室の設置、実験室の整備改善。(A)		
			② 防災用品(毛布・食品)の保管点検。(C)		
7 学生の受入れ募集	A 学生募集活動は適正に行われているか。	3. 8	[主な取組 並びに 成果]	○ 経済支援にかかる校内外の各種制度を充分広報し、社会人等の学び直しを支援していかなければならない。 ○ 入学者の多様性に配慮し、それぞれ自己実現が図られるよう体制を整えることが大切である。	1. 対面での説明やネット利用等をはじめ、多様な手段を駆使して本校の特色を広報し、定員確保に努める。 2. 男子学生や社会人経験者等多様な入学者の獲得に向けて幅広い広報活動を行う。 3. 運用開始3年目を迎える本校修学支援事業、文部科学省や厚生労働省の支援制
	B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3. 9	① 募集定員や募集対象、入選日程等の変更による多様な応募者の拡大。(A)		
	C 学納金は妥当なものとなっているか。	3. 8	② 会場ガイダンス・高校進学説明会・各高校訪問・教員対象説明会・オープンキャンパス・個別学校見学・中学校出前講座等、各種対面型の広報の充実。(A・B)		
			③ 学校HPの全面改良・スマホ対応に変更、ブログやインスタグラム運用向上による広報の充実。(A・B)		

			<p>④ 昨年度開始の本校独自修学支援制度とともに認定や確認を得た文部科学省関連の諸制度の広報充実。(A・B)</p> <p>⑤ 山形駅東西通路のデジタルサインボードでの広報、各行事における報道機関の取材による広報の充実。(A・B)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 高校訪問、会場進学ガイダンス、中学校出前授業、メディア等、各種広報手段による歯科衛生士職への理解のさらなる浸透。(A・B)</p> <p>② 山形県歯科医師会広報等他部門との連携強化。(A・B)</p> <p>③ 男子や社会人の入学者獲得に向けた広報の強化。(A・B)</p>		<p>度等各種の経済支援制度についての的確に広報し周知を図る。</p>
8 財務	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3. 3	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 予算執行や財務管理の適正執行。(B・C・D)</p> <p>② 本校独自の修学支援事業に係る円滑な事務手続き等の執行。(B)</p> <p>③ 財務状況の学校HP上の公開。(D)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 厚生労働省「専門実践教育訓練給付」制度の有効活用。また、「高等教育の修学支援新制度」の適切な運用。(A)</p> <p>② 本校独自修学支援事業のさらなる広報。(A)</p> <p>③ 日常的な経費節減とともに事業内容の精査による予算適正化の検討。(A・B)</p>	(特に発言なし)	<p>1. 今後予想される厳しい若者減少に備え、経費節減と効果的運用をめざしつつ、行事精選と定員確保に努める。</p> <p>2. 経済支援各制度の運用や事務手続き等について、わかりやすく整理し、様々な場面で広く周知する。</p> <p>3. 財務状況について適切な学校情報公開に努める。</p>
	B 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか。	3. 4			
	C 財務について会計監査が適正に行われているか。	3. 8			
	D 財務情報の公開の体制整備はできているか。	3. 8			
9 法令等の遵守	A 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3. 8	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 文部科学大臣「職業実践専門課程」認定を基盤とした校内体制の充実。(A)</p> <p>② 山形県当局より「高等教育の修学支援新制度」対象機関として確認。(A)</p> <p>③ 学校評価事業(4年目)の充実。「自己評価」と「学校関係者評価」の学校運営への適切な反映。(A・C・D)</p>	<p>○ 「法令等の遵守」はそれぞれ高いレベルで実施されているが、個人情報保護の視点は、今後学校HPやその他広報等で写真利用が増加する傾向にあり、さらに留意していく必要がある。</p> <p>○ 各項目毎の評価数値データは大切ではあるが、他との数値比較等ばかりではなく、内容や取り組みの充実</p>	<p>1. 学校HP上の情報公開欄の適切な更新に努め、保護者や一般に対し正確な情報提供を行う。</p> <p>2. 学校HPや各種メディアの利用等において、個人情報の保護について厳正に点検する。</p>
	B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3. 8			
	C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3. 8			

D 自己評価結果を公開しているか。	3. 8	<p>④ 教育課程編成委員会並びに学校図書室運営検討委員会の各年2回開催。企業等委員並びに外部有識者の意見の反映。(A・C)</p> <p>⑤ 学校HP上に「情報公開」欄を設置。ガイドラインに従い学校情報公開を開始。(A・C)</p> <p>⑥ 「個人情報保護方針」を学校HP上に公開。(B)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 公開情報の保護者や一般への周知。(D)</p>	<p>度や努力について正確に評価を行っていきべきである。</p> <p>○ 仕事の分野によっては、厳密にコンプライアンスの状況が問われる。学校教育においても、情報公開等によりさらにしっかり説明責任を果たして行ってほしい。</p>	<p>3. 校内各委員会において「企業等委員」や外部有識者からの指導助言をできる限りの確に学校運営に反映させる。</p>	
10 社会 貢献 ・ 地域 貢献	A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3. 4	<p>[主な取組 並びに 成果]</p> <p>① 第3学年「テーマ研究」発表会の公開授業化(3年目)による歯科医療の状況や健康長寿への関心を惹起。(A・C)</p> <p>② 「歯科専祭」の一部として、保育園児(幼児)向けコーナーを設置。(A・C)</p> <p>③ 地域清掃ボランティア年2回実施。(A・C)</p> <p>④ 各種地域ボランティア、歯科医療関連ボランティアへの参加の奨励。(B)</p> <p>⑤ 「花笠パレード」参加。東北地区「絆まつり」、山形市「祭りだワッショイ！」への団体出場。(A・B)</p> <p>[今後の課題]</p> <p>① 「歯科専祭」内容の大幅改善が必要。地域交流イベント企画の工夫や曜日設定等を含めて検討。(A・C)</p> <p>② 第3学年「テーマ研究」発表会の公開授業化継続による高校生や一般参加者の増大。(A)</p> <p>③ 学校行事日程等を勘案した参加地域行事の精選。(A)</p> <p>③ 学生自治会を中心とした自主性を重んじたボランティア活動の推進。(A)</p>	<p>(特に発言なし)</p>	<p>1. 「歯科専祭」の開催方法等について学生自治会を中心に協議を行い、点検し改善を図る。</p> <p>2. 第3学年「テーマ研究」発表会の公開化を推進し、地域や一般の方々に歯科医療等について理解を広める一助となるよう努める。</p> <p>3. 学生自治会の校内外の活動がよりよく、また自発的に行うことができるよう支援していく。</p>
B 学生のボランティア活動を奨励や支援をしているか。	3. 6				
C 地域に対する公開講座や教育訓練(公共職業訓練等含)の受託等を積極的に実施しているか。	3. 4				

